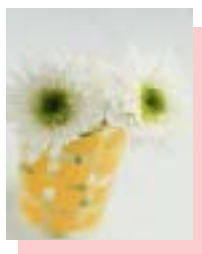


性感染症 予防啓発マニュアル

財団法人性の健康医学財団
性感染症予防啓発マニュアル作成委員会

目次

はじめに	3
若者の性感染症の現状	4
定点の把握4性感染症 定点当たり報告数年次推移/2000～2006年	5
性感染症とは	6
性感染症の種類	7
主な性感染症一覧	8
保健所に行く	10
病院・クリニックに行く	11
病院やクリニックで 診察を受けた場合の費用	12
症状別の医療費の目安	13
診察と検査の実際	14
Q&A 行動編	16
Q&A 症状編	19
おわりに	22



このパンフレットは、地域や学校、相談機関などにおいて青少年の性感染症（STI・STD）予防活動に関心をもつコメディカルスタッフ、若者からさまざまな相談を受ける養護教諭、カウンセラーなどの方達に向けて、予防活動をする際に役立つ資料として作られたものです。

性感染症の基本的な知識に始まって、「病院に行くとどんなことをされるの……」という若者の不安、「クリニックに行きたくても、いくらぐらいかかるかわからない……」という、若者にとってもっとも関心のある心配に答えることまで、若い人達が少しでも気軽に病院やクリニックを訪ね、検査や治療にあたる機会を増やす結果を生むためのミニマムエッセンスを載せました。

また、なかなか口に出さない具体的な不安や悩みを、Q&Aの形式で例示することで、現代の若者を取り巻く性感染症の状況をいろいろと想定してみました。知っているようで知らない若者の性の実態を知ることによって、効果的な性感染症予防の方策をさぐっていただきたいと思います。

このパンフレットはあなた自身のためのものですが、場合によっては、あなたのところに相談に来た若い人達に、直接手渡してもいいでしょう。そのようなときは、ただポンと渡しておしまいにするのではなく、かならずフォローアップすることを忘れないでください。

あなたの小さな心づかいが大きな結果を生むことに確信をもっていただきたいと思っています。

平成19年12月1日(世界エイズデー)

財団法人 性の健康医学財団
性感染症予防啓発マニュアル作成委員会

若者の性感染症の現状

性感染症全体の傾向をみると、性器クラミジア感染症、淋菌感染症は男女共に2003年までは増加傾向が見られ、その後は減る傾向にあります。一方、性器ヘルペスと尖圭コンジローマは、おおむね横這い傾向です。梅毒は、2003年までは減少傾向にありましたが、その後は増加してきています。

年齢別にみると、疾患を通して、男性では20代～40代前半が中心であるのに対して、女性では10代後半～30代前半が中心であり、女性は男性に比べて若年齢層に多い傾向がみられます。

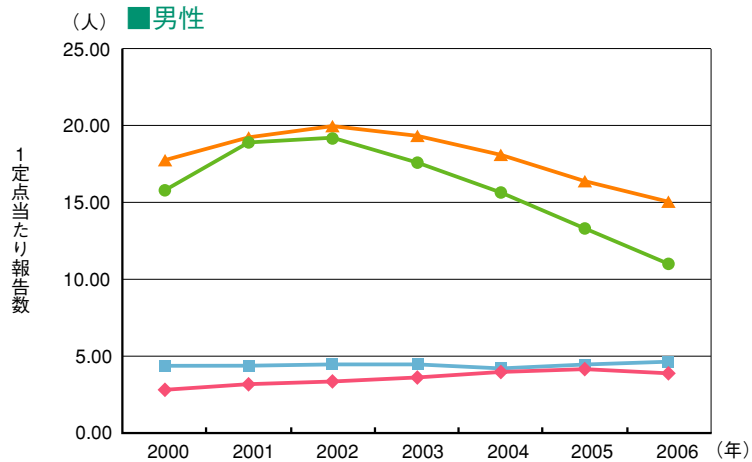
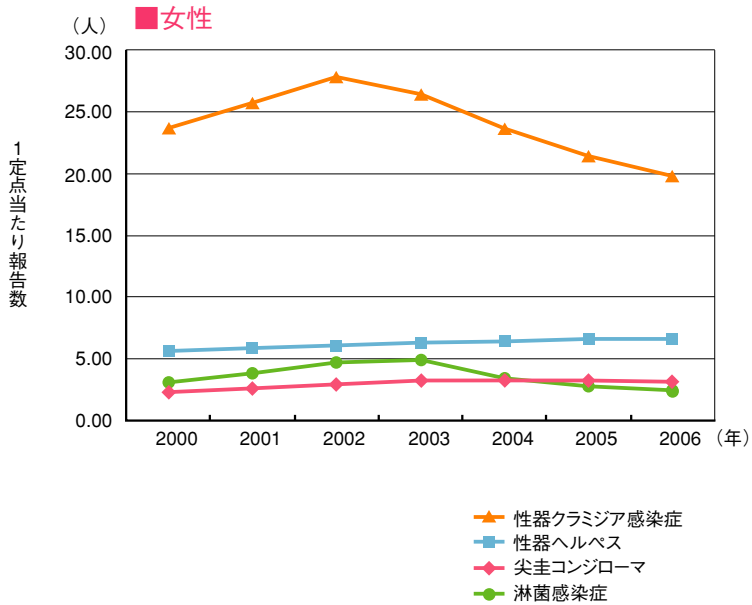
5歳きざみの年齢群別でみると、男性では、性器クラミジア感染症は20～24歳、尖圭コンジローマと淋菌感染症は25～29歳、性器ヘルペスは30～34歳にピークがみられ、一方女性では、4疾患すべてで20～24歳にピークがあります。

また、早期顕症梅毒は、Ⅰ期では25～29歳、Ⅱ期では30～34歳をピークに、20代から40代前半にかけて多く、近年の増加は主にこの年齢層にみられます。

15～29歳の幅広い若年層に注目してみると、性器クラミジア感染症、淋菌感染症は減少傾向にあり、性器ヘルペスは横這い、尖圭コンジローマにおいては、特に女性で若干の増加傾向がみられます。



定点の把握4性感染症 定点当たり報告数年次推移(2000~2006年)



※2006年4月より、1医療機関1定点から
1診療科1定点に変更されたため2006
年の定点当たり報告数を補正

厚生労働省
感染症発生動向調査 2007年1月15日現在

性感染症とは

性感染症(STI・STD)とは、「性的接触(性交やオーラルセックスなどの性行為)によって感染する病気」と定義され、10種類以上の病気があります(*)。そのうち特に、感染症の予防・治療に関する現在の法律(感染症法)の中で「特定感染症予防指針」によって規定されている「性感染症」は、梅毒、淋菌感染症(淋病)、性器クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、エイズ(エイズを発症していないHIV感染症を含む)の6種類です。これらの病気は現在の新しい法律では、「性病」と呼ばず「性感染症」と総称しています。

性感染症は、英語ではSTD(Sexually Transmitted Disease—性的接触によって伝染する病気)あるいはSTI(Sexually Transmitted Infection—性的接触によって伝染する感染症)と言いますが、最近専門家の間では好んでSTIと呼ぶ傾向にあります。それは、Disease(病気)というよりInfection(感染、あるいは感染症)といったほうが、最近注目される性感染症の概念をうまく表現していると考えられるからです。つまり、病原体が感染しても、ほとんど無症状のまま気づかれずに、病気が進行して手遅れとなる場合があることの認識と、その危険性を強く訴えたいからでしょう。その代表的な例としては、性器クラミジア感染症による不妊や、HIV感染が原因となって発症するエイズ、あるいはB型やC型肝炎ウイルスの感染によって発症する肝炎などがあげられます。



*日本性感染症学会が、『性感染症の診断・治療ガイドライン』として出版した2006年度版には次の17種類の病気があげられています。これらの感染症の感染ルートは、おもに性的接触によるものです。

性感染症の種類

感染症法の中で
規定されている
性感染症

- 梅毒
- 淋菌感染症(淋病)
- 性器クラミジア感染症
- 性器ヘルペス
- 尖圭コンジローマ
- エイズ(HIV感染症)

- 性器伝染性軟属種
- 腔トリコモナス症
- 細菌性腔症
- ケジラミ症
- 性器カンジダ症
- 非クラミジア非淋菌性尿道炎
- 軟性下疳
- A型肝炎
- B型肝炎
- C型肝炎
- 赤痢アメーバ症

上記以外で
日本性感染症学会が
性感染症として
あげているもの



主な性感染症一覧

疾病名	病原体	感染経路	潜伏期	
梅毒	梅毒トレポネーマ	性行為を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触	約3週間	
淋菌感染症	淋菌	性行為を介する粘膜との直接接触	2～7日	
性器クラミジア	クラミジアトラコマトリス	性行為を介する粘膜との直接接触	1～3週間	
性器ヘルペス	ヘルペスウイルス	性行為を介する皮膚・粘膜の病変との直接接触	2～10日	
尖圭コンジローマ	ヒト乳頭腫ウイルス	性行為を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触	3週間～8ヶ月	
膣トリコモナス症	膣トリコモナス原虫	尿道や性器からの分泌物との接触	不定	
ケジラミ症	ケジラミ	性行為を介する陰股部、陰毛との直接接触	不定（1～2ヶ月が多い）	
性器カンジダ症	カンジダ属の真菌	性行為を介して伝播しうるが、必ずしも発症しない	不定	
B型肝炎	B型肝炎ウイルス	血液や体液との皮膚・粘膜を介した直接接触	約3ヶ月	
C型肝炎	C型肝炎ウイルス	血液や血液を含む体液との皮膚・粘膜を介した直接接触	2週間～6ヶ月	
後天性免疫不全症候群（エイズ）	エイズウイルス	血液や体液との直接接触	平均10年程度	

症状	診断	治療	放置すると
感染した場所（性器とか口）に赤色の堅いしこりやただれができ、近くのリンパ節が腫れる（第Ⅰ期）。その後3～12週間くらいの間に、発熱、全身倦怠など全身症状とともに、皮膚にピンク色の発疹が現れ（第Ⅱ期）、さらに10～30年の間に心臓や血管、脳が冒される（第Ⅲ期）	病変部から病原体を確認、あるいは血液による抗体検査	抗生物質（ペニシリンやミノマイシン）	第Ⅰ期からⅡ期、Ⅲ期へと徐々に進展する
男性では排尿時痛と膿尿、女性では症状が軽く気づかないことも多い	性器、尿道からの分泌物から病原体分離培養あるいは核酸検査（PCR）	抗生物質に対して耐性率が高く、セフェム系注射剤が確実	徐々に広がって不妊の原因になることがある
男性では排尿時痛や尿道掻痒感、女性では症状が軽く無症状のことも多い	性器、尿道からの分泌物や尿からの抗原検出や核酸検査（PCR）	抗生物質（マクロライド系、ニューキノロン系）	徐々に広がって不妊の原因になることがある
性器の掻痒、不快感のち、水疱、びらん	病変部からウイルス分離、抗原検出	抗ヘルペスウイルス薬	痛くて放置できるものではない。放置しても2～4週間で自然に治るが、再発する
性器、肛門周囲などに鶏冠様の腫瘤	形態で可能	切除、レーザー、軟膏など	20～30%は3ヶ月以内に自然治癒、悪性転化あり
女性では膣炎による帯下、男性では自覚症状のないことが多い	性器、尿道からの病原体検出	メトロニダゾール	再発、再燃する。放置しても治ることはない
寄生部位（主に陰股部）の掻痒	虫体や卵の確認	剃毛、フェノリンパウダーあるいはシャンプー	症状の継続あるいは悪化。放置しても治ることはない
男性では症状を呈すること少ない。女性では外陰部の掻痒と帯下	病変部からの孢子や仮性菌糸の検出	抗真菌剤の膣錠や軟膏	症状の継続、再発、再燃。放置しても治ることはない
発熱や全身倦怠のあと、黄疸（1～2%で劇症肝炎）。無症候の場合もある	血液中の抗原、抗体の検出	予防にはワクチンが有効だが、特別な治療法はない	キャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある
全身倦怠感、食欲不振、黄疸などが見られるが、症状は軽い	血液中の抗原、抗体、遺伝子の検出	抗ウイルス薬とインターフェロン	多くがキャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある
感染成立の2～3週間後に発熱、頭痛などのかぜ様症状が数日から10週間程度続き、その後数年～10年間ほどの無症候期に入る。放置すると、免疫不全が進行し種々の日和見感染症や悪性リンパ腫などを発症する	血液中の抗体、抗原、遺伝子の検出、ウイルス分離	抗HIV薬	慢性的に進行し、死に至る

----- 検査を受ける前に -----

自分の行為が感染の可能性があるかわからない場合は、保健所や性の健康医学財団(03-5840-8665)に電話相談ができます。本人でなくても相談を受付けます。

1) 検査を受ける保健所を決める

全国の保健所でエイズ検査は匿名、無料で受けられますが、クラミジア、梅毒、淋菌感染症については保健所によって受けられるところと受けられないところがあり、保健所によって違いがあります。

- ※保健所によって検査日時、検査の項目、検査方法が違います。希望する保健所への確認が必要です。土日に検査を行っているところもあります。
- ※インターネット上の「HIV検査・相談マップ<http://www.hivkensa.com/>」は、場所や条件に合わせて検索ができます。

2) 受たい保健所に電話で問い合わせをする

- ※この時、必要な場合は予約をします。予約番号を告げられます。
- ※予約時に聞かれることは「希望する検査日時」ですが、HIV感染の検査の場合は「感染から2～3ヶ月たっているか？」なども聞かれます。

3) 検査当日

- ※受付(問診表に記入をします。氏名や住所を書く必要はありません。)
- ※プレカウンセリング(問診、検査の説明や簡単な質問を受けます。)
- ※尿検査等(HIVのみなら採血だけです。)
- ※血液検査(5～10ml採血をします。)
- ※結果を聞くための検査番号の控えをもらいます。この控え番号票がないと結果は教えてもらえません。大切に保管するように伝えましょう。
- ※1～2週間後に結果を聞きに行きます。口頭のみ説明が多いです。
- ※性感染症検査は、後日、結果を聞きに行く場合が多いです。エイズのみであれば、即日検査(当日の数時間後に結果を聞きに行く)を行っている保健所も多くあります。
- ※せっかく検査を受けたのですから、必ず検査の結果を聞きに行くように伝えましょう。
- ※保健所では性感染症の治療はできません。結果が陽性の場合はクリニック・病院を紹介されます。

----- 検査を受けた後に -----

検査の結果、受診するように言われた人には、必ず病院・クリニックへ行き、確認検査をすすめてください。結果告知の医師やカウンセラーにも相談ができます。結果が陰性でも、今後コンドームなしでの性行為があれば、うつ可能性があります。これからも予防に気をつける必要があります。

----- 受診する前に -----

性交の経験がある若者でも「性感染症」の知識は少なく、感染は他人事のような認識や態度をとりがちですが、性感染症は、特別な人が感染するものではなく、「性に関する生活環境汚染」といわれるくらい広がっています。性感染症の予防に注意することはもちろん、症状があったら、恥ずかしがることなく医療機関を受診するようにすすめましょう。病院、クリニックは、気軽に相談できる場所です。

1) 病院やクリニックを調べる

女性の場合は婦人科の病院・医院、ウイメンズクリニックをインターネットで検索すると、ホームページで、その施設の特徴や診療内容を具体的に知ることができます。思春期外来として開設している施設や〇×女性クリニックなど、若い女性を受診しやすいシステムになっている施設もあります。専門医や女性の医師が担当している曜日などの情報を相談者に提供しましょう。

男性の場合は、皮膚科、泌尿器科、性病科をネットで検索します。ほとんどの地域で医療機関の案内サイトがありますので、それらも紹介するといでしょう。

2) 気軽に電話をかけてみる

病院が、案内や実際に宣伝どおりであるかどうかは、直接出向くか電話してみるとわかります。病院・医院によっては保険診療ができない施設もあります。病院ですべての検査ができ、治療もできますが、クリニックでは、できない検査もあるので、あらかじめ外来受診日、時間、受診に必要なもの、できない検査などの情報を得ておき、相談者の症状によって、専門医師を選べるように情報を提供しましょう。

3) 受診する

受診時期は、症状があらわれているときが最も良い時期です。陰部や膈内は洗浄せず、そのまま受診することが検査をスムーズにし、診断の確定に役立ちます。受診理由、症状、現在困っていることなどをメモしておく、診察の際に手際よく答えることができ、質問することもできますので、メモを作っておくようにすすめましょう。性感染症が疑われるときには、パートナーの受診の必要性も伝えましょう。

病院やクリニックで診察を受けた場合の費用

病院やクリニックで診察を受ける場合、健康保険証を持って行けば、医療費の3割など（健康保険証の自己負担割合は3歳未満2割、3～69歳3割、70歳以上1割・現役並所得者は3割）を自己負担することで治療や投薬が受けられます。ただし、検査や治療によっては保険適用になっていない場合もありますから、事前に問い合わせをしてから受診するようにおすすめしましょう（自己負担の割合は平成19年11月の時点でのものです）。

Point 1 保険証について

日本では、「国民皆保険」といって、すべての国民が何らかの健康保険に加入していることが前提となっています。被保険者（健康保険に加入している本人）ではない高校生や大学生などの場合は、できるだけ健康保険証を持っている保護者に事情を話して、保険証を持って病院へ行くよううながしてください。しかし、どうしても保護者に病気を知られたくないなど、保険証を使えない場合は、全額自費での受診となることをきちんと説明しましょう。

Point 2 全額自己負担の場合

全額自己負担の場合は、病院やクリニックによって、またそこで行う検査、治療法、薬の種類によって料金に差がありますから、必ず事前に問い合わせをし、確認してから受診するようにおすすめしましょう。当然、保険証を持って行った場合よりも高額となります。

Point 3 検査を受けたい場合

特に症状がなく、ただ検査を受けたいだけの場合は保険は適用されません。

Point 4 診察料の内訳について

病院にかかった場合の医療費は、初診料または再診料、診断料、検査料、治療代、薬代などです。健康保険を使った場合の初診料は、時間内2700円、時間外3550円です。再診料の場合、病院では570円（200床未満）、700円（200床以上）の2種類があり、診療所では710円です（3歳以上70歳未満の場合は、ここに記した金額の3割が自己負担額となります）。

Q1●性器のところにブツブツがある。

A1 健康保険証を提示すれば保険が適用されますので、病院へ行くようすすめてください。尖圭コンジローマ、性器ヘルペスの場合、初診料、検査料や治療代（処置料、手術料〔イボ切除〕）などで3000円～5000円くらいでしょう。そのほか薬代も必要となりますが、料金は薬の種類によって異なります。全額自費の場合は、病院やクリニックによって異なりますが、保険証を使った場合の3倍以上はかかるでしょう。

Q2●性器がかゆい

A2（女性の場合）産婦人科で検査を受けるように言いましょう。この場合症状がありますので保険の適用となります。性器カンジダ症では局所の所見や検査（カンジダの培養を行う）を行い、治療は腔洗浄と腔錠（腔の中にクスリを入れる）となります。保険を使った場合の費用は1000円程度でしょう。全額自費の場合は、およその目安ですが、診察料が3000円～5000円、検査料が3000円～5000円、そのほかに薬代が必要となります。

（男性の場合）泌尿器科もしくは皮膚科を受診するように言いましょう。初診料のほかに、検査料、処置料、治療代（軟膏など）がかかります。検査料などは、診療内容によって異なります。

Q3●パートナーが性感染症にかかった

A3 必ずパートナーと一緒に受診するようにすすめてください。初診料、検査料（クラミジアトリコモナス・淋菌の抗体検査やウイルスの抗体検査）、診断料、治療薬に健康保険が使え、2000円～3000円くらいです。全額自費では、診断料、検査料、治療代など保険に比べて高額です。1万円以上はかかるでしょう。

Q4●（女性の場合）おりものが多い

A4 産婦人科を受診させてください。費用の目安はA3を参照。

Q5●（男性の場合）精液に黄色いものが混ざる

A5 泌尿器科、皮膚科で精密検査をしてもらうように言いましょう。費用は検査の内容によって異なります。

◆こんなときは受診をすすめましょう

女性:帯下の増量、外陰部の痒み、ひりひり感、違和感、水泡、ビラン、いぼ状のできもの、頻尿、残尿感、排尿痛がある場合など。→**婦人科を受診**

男性:尿道からの膿状の分泌物、排尿痛、排尿時違和感、陰囊の腫脹、陰茎にぶつぶつや水泡、ビランができたときなど。→**泌尿器科、皮膚科を受診**

◆診察を受ける前

<初めて診察をうける場合>

*受付で初めての診察であることを告げ、健康保険証を出します。保険証の提示がないと保険診療ができず、医療費はすべて自己負担となります(くわしいことは12、13ページを参照してください)。

*問診票では次のようなことを聞かれます。

(該当する項目を○で囲んで答えることが多い)

- 氏名、生年月日、住所、電話番号など
- 本日の受診理由(帯下が多い、陰部が痛い、月経が遅れている その他)
- 月経について(初経年齢、月経周期、持続日数、月経量、月経困難症の有無、最終月経など)
- これまでの病気、現在薬を飲んでいるか、薬剤アレルギーはないか、その他の病気の有無、紹介者がいるかなど

*問診票を提出するとカルテが作成され、診察室に回されます。

<健康保険の場合>

保険の種類や機関によっては、後日、保険による受診状況に関する通知が被保険者宛に送られてきて、いつ、誰が、どこでこの保険証を使用したかがわかります。保険証は親の了解を得て使用するよう伝えましょう。

◆診察の手順

1)問診(症状に対する質問)

名前を呼ばれたら診察室に入ります。診察室では医師が問診表に添って受診の理由を確認し、性感染症の疑いがある場合は、症状の現れた時期と性的な接触や性交の時期、これまでの処置や薬剤使用の有無などを聞きます。恥ずかしがらずに隠すことなく、本当のことを話すことが確実な診断につながることを理解させましょう。

2)診察(視診・触診)

症状によっては性器の診察があります。下着(ショーツ)をとり、診察台(必

要時は婦人科内診台)に上がります。看護師が必要な説明をしてくれるので心配ありません。手は軽く胸において口で呼吸をすると体の緊張がとれます。はじめから終わるまで、診察時には看護師がいつもついていますので、1人になる心配はありません。外陰部の変化は視診(見る)だけで診断できることもあります。発赤や痛みのある場合にはその部分に触れて、痛みの程度をみます。

排尿痛などの場合は、尿道口を消毒して細い管を使って尿をとり、尿の色、混濁、匂いを観察して検査にまわします。

3) 腔鏡診

腔内を専用の器械を挿入して診察します。腔分泌物の性状(量、色、匂い、血液混入の有無など)を観察し、一部をとって顕微鏡で観察します。腔トリコモナス原虫、カンジダ属の真菌はこれで診断でき、その際、同時に腔内に座薬を挿入して治療を開始します。培養検査に出すこともあります。クラミジアアトラコマティス(性器クラミジア感染症)は、子宮頸管内膜に感染増殖しますので、その部分の分泌物を採取して検査します。診察時は力を抜いていれば痛みはほとんどありません。

4) 内診

子宮、卵管、卵巣の状態を腹壁と腔を介して手指により観察するのが内診です。それらの大きさや圧痛の有無、骨盤腹膜炎の症状がないかどうかを診察します。

5) 血液検査

血液で抗体価や感染徴候などを調べます。

◆ 診察結果の説明と服薬指導

最後に医師から結果と治療方針の説明があり、多くは内服薬と外用薬、腔座薬で治療します。服薬指導は薬局でもていねいに説明してくれます。診断が確定せず、検査結果が数日たたないとわからない場合は、再度受診する必要がありますが、応急的な治療はスタートすることがほとんどです。

男性の場合は泌尿器科・皮膚科などを受診します。手順や保険証の提出などは女性と同じです。ここでも症状に沿って診察され、性器の外診や尿道の分泌物の採取、尿の検査、時に直腸診がなされます。男性の外性器は体外にあるため診察は比較的容易に行なわれます。性器の診察時は男性の医師のみで診察するよう配慮しているところもあります。

Q1 病気になっても、薬で治るから大丈夫？
症状がなくなったら、薬は飲まなくていいの？

A1 クラミジアや淋菌のように薬を飲めば治るものもありますが、エイズ(HIV)のように薬を飲んでも完治しない病気もあります。性器ヘルペスは一度感染して治っても、何度も再発しますし、がんの原因になる病気もあります。感染しないようにすることが大切です。

病気が心配なときは早く検査に行き、適切な治療を受けましょう。抗菌剤を飲むと症状がおさまって治ったように思えますが、菌が生き残ったり、指示どおりに飲まないことで耐性菌ができることもあります。薬は医師の指示通り最後まで飲みましょう。

Q2 病院に行かないでうつっているかどうか
わかる方法がありますか？

A2 自宅等で検査を受ける方法があります。通信販売や薬局等でキットを入手し、自宅で検査をして検査機関へ郵送し、検査結果をもらうことができます。

しかし、疑陽性がやすく、キットで陽性、病院・クリニックで陰性になる例があります。検査の精度(完全度)が低い、以前の感染をひろってしまう場合もあるので、結局きちんと調べることになる可能性があります。最初からクリニックや病院で検査をしてもらうほうがよいでしょう。

Q3 性感染症の防ぎ方を教えてください。

A3 性感染症は性行為を通して感染する病気なので、完璧に防ぐ方法はセックスをしないことです。お互いがセックスをすることに合意したら、まず、検査をして感染していないことを確認すること、コンドームを正しく使うことが大切です。

また、咽頭への淋菌やクラミジアの感染を防ぐためには、オーラルセックスでもコンドームや女性用コンドームを正しく使い、精液・膣分泌液や皮膚・粘膜との直接接触を避けましょう。

Q4 パートナーにコンドームを使ってもらうには どうしたらいいですか？

A4 あなた自身はなぜコンドームを使ってもらいたいのでしょうか？「性感染症や妊娠を避けたい」と強く思っていますか？

その気持ちを確認した上で、パートナーに率直に気持ちを伝えるように話しましょう。

伝え方としては二人の関係が気まずくならないよう、雰囲気を壊さないように、「今、性感染症が流行っていて危ないと聞いた。」「妊娠を避けたい。」ので「コンドームを着けてほしい。」という伝え方はどうでしょうか？具体的に言えそうな言葉をあなたと一緒に考えましょう。

また、コンドームを着けない時や着けない相手とはセックスをしない、と決めておくことも大切です。イヤなことはイヤといえる勇気を持って欲しいし、それを受け止めてくれる相手であることが大事です。

※コンドームが破れたり、性交の途中から使ったりすると、粘液の接触で感染することがあります。コンドームは使用前は①ケースに入れて保管②使用期限を確認し、使用時はペニスが勃起したら装着し、使用後は速やかにティッシュ等に包んで捨てます。一度使ったコンドームの再装着は危険です。



Q5 パートナーにエイズや性感染症検査を受けてもらうにはどうしたら良いですか？

A5 まず、あなたがなぜパートナーに検査を受けてもらいたいのか、そのわけをきちんと伝え、話し合うことが大切ではないでしょうか。

話し合うタイミングとしては、相手に余裕があり話をきちんと聞いてくれるときに、以下のことを話題にして勧めてみてはどうでしょうか？

「二人とも検査をすることが大切」「HIV感染や性感染症が増えている」「かかっているもはっきりした症状が出ないHIV感染などの性感染症もあるので、症状がないから大丈夫とはいえない」

また、自分が先に検査を受けてその体験をもとにパートナーに勧めることも効果的です。

Q6 フェラチオやクニリングスだけでもうつりますか？

A6 オーラルセックスでも、口やのどを通して咽頭に感染している例が多くみられます。

性器クラミジア感染症患者の10%、淋菌感染症患者の30%で、同時に咽頭から病原体が検出されています。そのほとんどは無症状なので、自分では気が付かないこともあります。咽頭感染していると性器感染が再発することがあります。

Q7 1回のセックスで性感染症になる可能性は何パーセントですか？

A7 病気によって感染しやすさは異なるので、何%といえません。1回だけのセックスでも感染する場合ももちろんあります。性器に傷や感染症があると粘膜等の傷から病原体が侵入しやすくなるため、感染率は高くなります。また、パートナーの数が増えると感染率は高くなります。

Q1 性器がかゆくなって、市販の薬をつけても治らないのですが、どうしたらいいですか。セックスをしてもいいですか？

A1 かゆい症状は、いろいろな病気で起きてきます。性器カンジタ症や淋菌、クラミジアなどの性感染症による場合と、アレルギーによるもの、下着のこすれによるものなどの可能性が考えられます。

市販の薬だと、症状を和らげる程度で根本的には治らないことがあります。症状が続くようであれば、医師の診断を受け、症状に効く薬をもらい、指示を守って使いましょう。

性感染症でないことがわかるか、性感染症の治療が終わるまで、性行為は避けましょう。

Q2 おりものの量が増えたので、病気かどうか心配です。

A2 月経の周期で増えるときもありますが、量が多すぎたり、色が変わったとき、匂いが強いときなどは、性感染症の可能性あります。コンドームを使用しない、または正しく使わない性行為のあとにこのような症状があるときは、早めに受診をしましょう。

Q3 クラミジアはうつってもわからないの？

A3 感染していても症状がないことが多く、性感染症の中でも発見が遅れやすい病気です。放っておくと女性では不妊症や流産、子宮外妊娠、男性は前立腺炎の原因になります。知らない間にうつしたり、うつされたりする可能性があります。



Q4 性器にイボのようなぶつぶつができているんだけど…？

A4 性器ヘルペスや尖圭コンジローマの可能性あります。放置すると悪化する可能性があります。早めに病院・クリニックへ行きましょう。パートナーも感染していないか診断してもらいましょう。

Q5 エイズにかかると最初に症状はでますか？

A5 HIVに感染後、数週間以内に熱やだるさ、筋肉痛や関節痛などインフルエンザに似た症状が出る場合があります。しかし、この時期に症状はなかった、気づかなかったという人もいますが、出ないことも多いです。



Q6 症状がなければ放置しても大丈夫なの？

A6 性器クラミジア症やエイズなど、自覚症状がなくても感染している場合があります。症状がなくても検査を受けることは、自分の体を守るために大切なことです。検査の結果により治療が必要と言われても放置すると、不妊症の原因になったり、治りにくくなる可能性があります。治療が必要と言われた時は、ただちに治療を受けましょう。

Q7 パートナーが性感染症で治療しています。自分も同じ症状が出たのですが、パートナーが病院でもらった薬を飲んでも大丈夫ですか？

A7 パートナーから薬をもらうことはやめてください。もしかしたらあなたは性感染症ではない可能性もあります。同じ症状が出たとしても、同じ状態、同じ病気とは限らないので、もらった薬が効くかはわかりません。また、あなたには薬の副作用が出るかもしれません。

あなたとパートナーの体は違います。それぞれがきちんと病院・クリニックへ行き、検査・治療を受けましょう。素人判断は禁物です。

また、あなたがパートナーの薬をもらうことは、パートナーの治療に必要な薬の量が足りなくなり、パートナーの治療が十分にできないことにつながります。不十分な治療は、再発や菌の耐性化を招き、治療効果を下げることになります。

<耐性菌の問題>

性感染症の治療に抗菌薬を用いると、薬の効かない菌つまり耐性菌が生ずることがあります。その代表が淋菌感染症で、すでにペニシリンなどをはじめ抗菌薬の80%は淋菌に効きません。したがって耐性菌の治療に用いる薬は限られているため、きちんと受診して効果を確認しつつ治療を受ける必要があります。なお、クラミジアには今のところ耐性菌は生じていません。

これまでに、あなたが知っていたこと、くわしくは知らなかったことを含めて、性感染症の予防啓発活動を進める上で役に立つだろうと思われることを紹介してきました。

最後に、若い人達から相談を受けたときの注意すべき点について、気のついたことをお話しします。これらのことが身につけば、もうあなたは大丈夫です。

Point 1 お説教は止めよう

あなたのところを訪ねてきた若者は、それまで誰にも相談できずに、ひとりで悩んだり迷ったあげくに、ようやくやって来た人です。その若者に対応するあなたの姿勢には、“指導”ではない“サポート”の心構えがもっとも大切であることは言うまでもありません。“お説教”をしてしまうと、若者はそこでもう、あなたの話を聞こうという気をなくしてしまいます。

Point 2 相談者の話をよく聞こう

自分が言いたいことをうまく表現できないのが、今どきの若者の特徴です。ましてや自分のプライバシーにかかわるセックスにまつわる不安や心配ごとを、はっきり口に出して言える人は多くないでしょう。若者が何を相談したがつているのか、どんな答えを聞きたがつているのか、相手の話をじっくりと聞く姿勢を忘れないでください。

Point 3 自分の常識を疑ってみよう

若者の性意識や性行動はきわめて多様です。あなたの“常識”や想像外の考え方や行動をとることも“普通”です。「何が正しくて何が間違っているのか」ということは、人間の社会生活文化の上からみても、そう簡単に決められるものではありません。同性愛者やGID (Gender Identity Disorder:性同一性障害)の人達への気くばりにも留意してください。あなたの“常識”が他の人にとっては“非常識”であることもあり得ることを肯定することも大切です。

Point4 情報をたくさんもとう

相談に来た若者に比べれば、あなたは性感染症についての知識はたくさん持っているでしょう。とは言え、あなたは性感染症の専門家ではありません。新しいデータや最新の医療知識について、常に、全方向性のアンテナを張って、情報の収集に神経をとがらせていてください。偏った情報は、事態を悪い方向にもっていきることがあるので気をつけましょう。

Point5 信頼関係をきづこう

若者の相談の中身は、性感染症に関係することに始まって、セックスの仕方やパートナー数の話、妊娠や中絶、お金の話などなど多岐にわたることもあります。そこではまず、あなた自身の知識や経験が問われることになります。スペシャリティとジェネラリティのバランスのとれた姿勢が、相談者を一番安心させる態度であることを覚えておきましょう。

Point6 “知ったかぶり”は止めよう

ひとは、相談を受けると、その全部に答えないといけなような気持ちにさせられてしまうようです。でも、あなたはオールマイティではありません。わからないことがあったら、その場をとりつくろうのではなく、はっきりと、わからないということを伝え、専門領域の人に相談するようにすすめる余裕を忘れずにもっていてください。

Point7 ネットワークづくりを始めよう

これまで述べてきたポイントのゴールは、相談に来た若者の不安や悩みに答えると同時に、若者自身に、病院やクリニックに足を向けるためのモチベーションを喚起することにあります。あなたの周辺に、信頼できる医師と相談仲間のネットワークを作り上げ、いつでも若者が安心して病院やクリニックの扉を叩ける態勢をつくってあげてください。

性感染症予防啓発マニュアル

平成19年12月発行

性感染症予防啓発マニュアル作成委員

阿部真理子	神奈川県立大和西高等学校養護教諭
今福貴子	フリー編集者&ライター
齋藤益子	東邦大学医学部看護学科教授
島崎継雄	日本性科学情報センター所長（*）
谷口清州	国立感染症研究所感染症情報センター第一室長
寺戸尚美	港区みなと保健所
山崎修道	国立感染症研究所名誉所員
山田悦子	東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課 エイズ相談事業担当係長

（五十音順 * 印は委員長）

財団法人 性の健康医学財団

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-6湯島堀井ビル3階

電話:03-3813-4098/FAX:03-3813-4107

<http://www.jfshm.org/>

性感染症電話相談/03-5840-8665

*予約受付時間

（月）～（金）の正午12時～午後5時（祝祭日を除く）

独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成（事業）